

【平成 29 年 10 の経済報告】

平成 29 年 10 月 19 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。平成 29 年 10 月の経済報告をお届けします。

1. 全般動向

8 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：106.8、一致指数：117.6、遅行指数：116.5 となった（注）。

先行指数は、前月と比較して 1.6 ポイント上昇し、2 か月ぶりの上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.70 ポイント上昇し、2 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.32 ポイント上昇し、13 か月連続の上昇となった。

一致指数は、前月と比較して 1.9 ポイント上昇し、2 ヶ月ぶりの上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.60 ポイント上昇し、2 ヶ月ぶりの上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.61 ポイント上昇し、13 か月連続の上昇となった。

遅行指数は、前月と比較して 0.5 ポイント上昇し、2 か月ぶりの上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.13 ポイント上昇し、3 か月ぶりの上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.16 ポイント上昇し、9 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201708psummary.pdf>

2. 各経済指標

◎ 月例報告（内閣府）（平成 29 年 9 月 25 日公表）

日本経済の基調判断

（現状）

- ・景気は、穏やかな回復基調が続いている

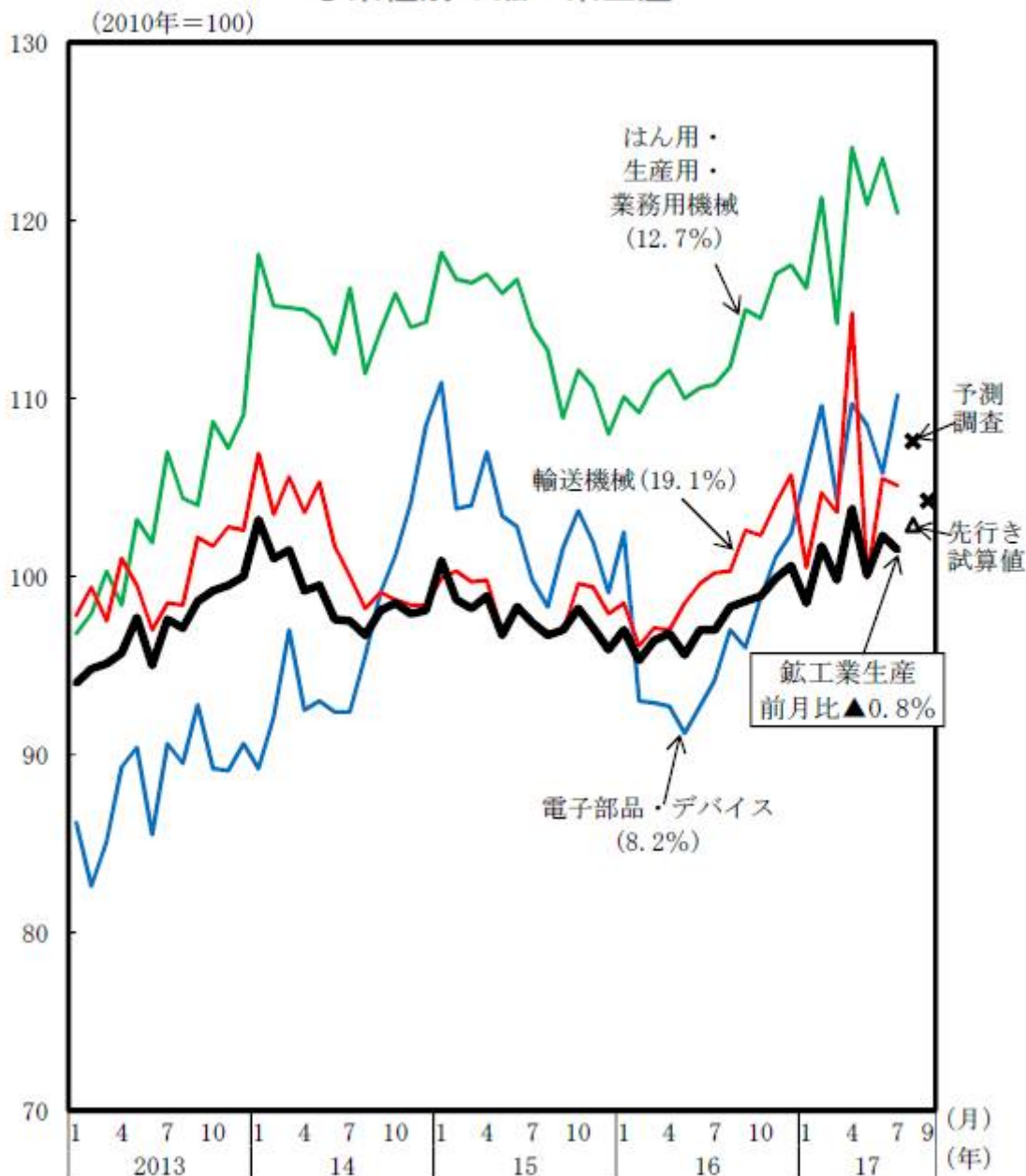
（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあつ

て、穏やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

生産：持ち直している

○業種別の鉱工業生産



(備考) 経済産業省「鉱工業指数」により作成。数字は季節調整値。
8、9月の×は製造工業生産予測調査の値、8月の△は予測調査と実現値の偏差の傾向をもとに算出した先行き試算値(経済産業省作成)。
各業種名の隣にある()内の数値は、当該業種の鉱工業生産全体に占めるウエイト。

詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2017/09kaigi.pdf>

◎ 設備投資

平成 29 年 7 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 29 年 10 月 11 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2017（平成 29）年 7 月前月比 4.9% 増の後、8 月は同 8.5% 増の 2 兆 5,839 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 6.2% 増の 1 兆 589 億円、官公需は同 17.8% 減の 3,156 億円、外需は同 11.5% 増の 1 兆 1,100 億円、代理店は同 0.6% 減の 1,259 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2017（平成 29）年 7 月前月比 8.0% 増の後、8 月は同 3.4% 増の 8,824 億円となった。このうち、製造業は同 16.1% 増の 4,130 億円、非製造業（除く船舶・電力）は同 3.1% 増の 4,669 億円となった。

対前月(期)比

(単位:%)

需要者	期・月	2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)			2017年 (平成29年)			
		7-9月 (実績)	10-12月 (実績)	1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	7-9月 (見通し)	5月 (実績)	6月 (実績)	7月 (実績)	8月 (実績)
受注総額		-1.1	13.4	-7.9	1.7	6.5	-3.1	2.1	4.9	8.5
民需		2.5	10.9	-14.4	-0.9	7.3	1.7	4.4	1.1	6.2
〃 (除船電)		5.5	0.3	-1.4	-4.7	7.0	-3.6	-1.9	8.0	3.4
製造業		1.9	2.7	-4.2	3.7	-1.8	1.0	-5.4	2.9	16.1
非製造業(除船電)		6.2	-1.0	0.0	-9.9	13.5	-5.1	0.8	4.8	3.1
官公需		8.3	13.5	-1.9	-17.6	14.7	-22.0	50.1	-3.3	17.8
外需		-8.6	15.5	-2.2	9.6	6.2	-5.2	-3.1	9.1	11.5
代理店		7.5	-0.1	2.2	4.2	2.4	-2.0	3.6	-0.6	-0.6

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1708juchu.html>

◎ 鉱工業指数調査

【最新プレス情報 平成 29 年 8 月分】 (平成 29 年 10 月 16 日発表)

鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)

～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、103.4 で前月比 3.3%の上昇であった。

製造工業生産能力指数は、94.3 で前月比 0.0%の横ばいであった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	103.4	3.3	97.1	-6.2	4.2
生産能力			94.3	0.0	-0.1

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	103.5 (103.6)	2.0 (2.1)	97.4 (97.5)	5.3 (5.4)
出荷 (速報値)	101.8 (101.8)	1.8 (1.8)	94.9 (94.9)	5.8 (5.8)
在庫 (速報値)	107.3 (107.2)	-0.6 (-0.6)	111.1 (111.0)	-2.9 (-3.0)
在庫率 (速報値)	108.6 (108.4)	-4.1 (-4.3)	119.3 (119.1)	-4.1 (-4.3)

<電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

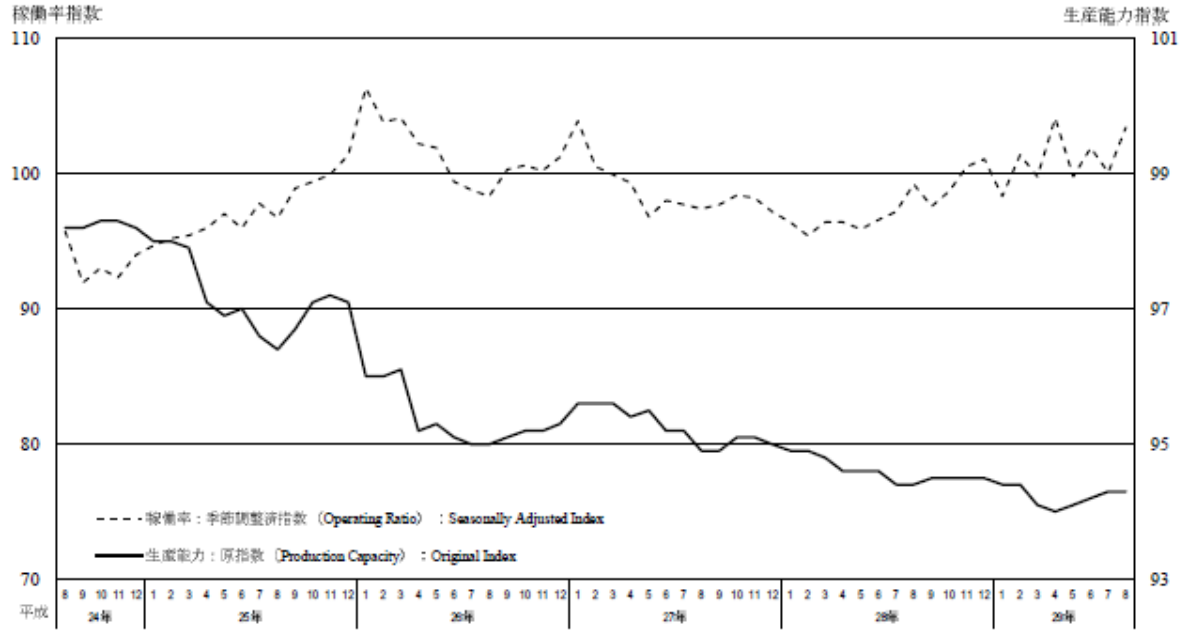
(1) 8月の製造工業稼働率指数は、103.4 で前月比 3.3%の上昇であった。業種別にみると、輸送機械工業同 3.9%、電子部品・デバイス工業同 5.1%、はん用・生産用・業務用機械工業 2.1%、等が上昇し、非鉄金属工業同▲1.4%、金属製品工業同▲1.1%、繊維工業同▲0.5%が低下した。

(2) 7月の製造工業生産能力指数は、94.3 で前月比 0.0%の横ばいであった。

製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)

(平成22年基準)
(2010 average=100)

Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表
 Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100
 index.2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity				Year and Month
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index				
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (同月期)比 %Change From Previous Year			
平成 26 年			101.3	4.1	95.3		▲ 1.9		C.Y. 2014
27			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3		C.Y. 2015
28			97.7	▲ 1.0	94.5		▲ 0.5		C.Y. 2016
平成 26 年度			100.6	0.6	95.6		▲ 0.5		F.Y. 2014
27			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8		F.Y. 2015
28			98.6	0.6	94.1		▲ 0.7		F.Y. 2016
平成28 年	Ⅱ期	96.3	0.2	94.7	▲ 2.6	94.6	▲ 0.2	▲ 0.6	Q2 2016
	Ⅲ期	98.0	1.8	98.2	▲ 0.5	94.5	▲ 0.1	▲ 0.4	Q3
	Ⅳ期	100.1	2.1	99.6	1.8	94.5	0.0	▲ 0.5	Q4
平成29 年	Ⅰ期	99.8	▲ 0.3	101.9	3.7	94.1	▲ 0.4	▲ 0.7	Q1 2017
	Ⅱ期	101.9	2.1	100.2	5.8	94.2	0.1	▲ 0.4	Q2
平成28 年	6月	96.6	0.7	100.1	▲ 2.3	94.6	0.0	▲ 0.6	Jun. 2016
	7月	97.2	0.6	100.5	▲ 4.5	94.4	▲ 0.2	▲ 0.8	Jul.
	8月	99.2	2.1	93.2	4.5	94.4	0.0	▲ 0.5	Aug.
	9月	97.6	▲ 1.6	100.9	▲ 0.9	94.5	0.1	▲ 0.4	Sep.
	10月	98.7	1.1	97.9	▲ 1.8	94.5	0.0	▲ 0.6	Oct.
	11月	100.5	1.8	101.5	4.4	94.5	0.0	▲ 0.6	Nov.
	12月	101.1	0.6	99.3	3.0	94.5	0.0	▲ 0.5	Dec.
平成29 年	1月	98.3	▲ 2.8	96.2	3.6	94.4	▲ 0.1	▲ 0.5	Jan. 2017
	2月	101.4	3.2	99.6	3.9	94.4	0.0	▲ 0.5	Feb.
	3月	99.8	▲ 1.6	109.8	3.5	94.1	▲ 0.3	▲ 0.7	Mar.
	4月	104.1	4.3	98.7	6.2	94.0	▲ 0.1	▲ 0.6	Apr.
	5月	99.8	▲ 4.1	96.2	5.7	94.1	0.1	▲ 0.5	May
	6月	101.9	2.1	105.6	5.5	94.2	0.1	▲ 0.4	Jun.
	7月	100.1	▲ 1.8	103.5	3.0	94.3	0.1	▲ 0.1	Jul.
	8月	103.4	3.3	97.1	4.2	94.3	0.0	▲ 0.1	Aug.

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201708nj.pdf

2. その他の動向

1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2017.09.29 発表) を公表しました。

- ・ 2017 年 7 月グローバル出荷額は 3,362 億円、前年比 115.0% となり、前年比プラスとなった。
- ・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 116.2% 1,212 億円)、接続部品 (同 121.8% 934 億

円)、変換部品(同114.5% 726億円)、その他の電子部品(同102.0% 489億円)となった。

・地域別出荷は、日本(前年比116.0% 791億円)、米州(同104.0% 295億円)、欧州(同126.2% 323億円)、中国(同109.4% 1,188億円)、アジア・その他(同124.1% 768億円)となった。

【月別出荷金額】

電子部品出荷額(億円)	2017年度						2017年度累計		
	5月		6月		7月		4月-7月		
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	
世界計	3,080	108	3,343	108	3,362	115	12,894	109	
(日本)	683	111	788	106	791	116	3,026	113	
品 目 別	受動部品	1,121	110	1,209	112	1,212	116	4,633	111
	コンデンサ	760	110	826	115	824	117	3,148	112
	抵抗器	124	113	134	112	130	114	511	111
	トランス	39	106	39	102	37	109	153	103
	インダクタ	197	109	208	105	219	113	820	108
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	接続部品	848	116	934	114	934	121	3,593	117
	スイッチ	351	99	404	104	410	121	1,549	107
	コネクタ	492	133	524	123	518	122	2,021	126
	その他	5	116	5	105	5	121	21	118
	変換部品	655	106	694	102	726	114	2,750	108
	音響部品	137	104	155	88	162	143	622	115
	センサ	329	104	348	108	354	107	1,357	105
	アクチュエータ	188	111	190	107	209	109	769	110
	その他の電子部品	453	94	506	98	489	102	1,917	95
電源部品	191	109	210	111	190	111	787	111	
高周波部品	262	85	295	91	299	96	1,130	86	

【地域別出荷金額】

地域別出荷金額(億円)	2017年度						2017年度累計	
	5月		6月		7月		4月-7月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,080	108	3,343	108	3,362	115	12,894	109
日本	683	111	788	106	791	116	3,026	113
米州	307	103	313	100	295	104	1,218	102
欧州	341	113	343	108	323	126	1,316	110
中国	1,059	102	1,180	108	1,188	109	4,474	105
アジア他	688	115	720	116	768	124	2,868	116

※電子部品グローバル出荷統計について

- ・本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル動向調査」を基に作成しております。
- ・本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース(グループ間取引調整後)の出荷額データをとりまとめ、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷になります。
なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下のHPをご参照下さい。

http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html

2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2017 - 2022 年 : コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMS のエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2017-2022 年の MEMS 市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- * 内蔵システムと MEMS
- * MEMS 市場促進要因
- * 企業分析
- * MEMS 市場予測

となっております。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上